

科目名称:	教育課程・保育の計画と評価	
担当者名:	村上 知子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>保育を実践していく上で子どもの主体性を尊重した保育の計画は必要不可欠である。本授業では、保育計画の重要性と、保育課程・教育課程の編成、指導計画作成についての学びを深める。また、小学校との接続・連携の意味を理解し、そのあり方について学び考える。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>乳幼児にとって望ましい発達や学習を引き出すためには、保育課程・教育課程に基づいた指導計画が必要である。本授業では保育課程、教育課程の全体的な計画の編成と指導計画作成について具体的に理解する。さらに、保育の充実のための「計画、実践、反省・評価、改善」について考察し、理解し、実践につなげることを身につける。 改訂された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み取り、保育につなげることができるようになる。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		60	20	20	100
幼児教育DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》保育士	《経験年数1》8ヶ月
	《内容2》幼稚園教諭	《経験年数2》20年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
保育の計画についての知識と理解	よく理解できており、講義で得た知識を組み合わせ思考できる	講義で得た知識を組み合わせ、自分なりに考えることができる	保育の計画についておおよそ理解している	保育の計画について、理解度が低く、知識が得られていない
保育の計画についての実践力	保育の計画を立案し、保育実践につなげることができる	保育の計画を立案し、保育実践を想定することができる	自分なりに保育の計画を立案することができる	計画に消極的で、保育を想定することができていない
学びへの積極性	自発的に質問や意見を発すると共に、他者の意見を尊重している	自分なりに問題意識を持ち、質問や意見を発することができる	自分なりに問題意識を持ち、意見を記述することができる	講義への参加意欲や、他者に対する理解が見られない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 保育における計画の意義	保育所実習を振り返り、自分の経験を発表できるように考察しておく。	30分
第2回 日本におけるカリキュラムの基礎理論	教科書20-23pを読み、提出カードに記述しておく	30分
第3回 子ども理解に基づく保育の循環・小テスト	第1～3回の内容を復習しておく	45分
第4回 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ・改訂内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を準備	30分
第5回 幼稚園の教育要領の編成の基本原則と方法	教科書50-52pを読み、提出カードに記述しておく	30分
第6回 保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法・小テスト	第4～5回の内容を復習しておく	45分
第7回 幼稚園の指導計画の作成（ICTの活用）	幼稚園の指導計画について調べ、発表できるようにしておく	30分
第8回 保育所・認定こども園の指導計画の作成（ICTの活用）	保育所・認定こども園の指導計画について調べ、発表できるようにしておく	30分
第9回 保育の評価	教科書104-105pを読み、提出カードに記述しておく	30分
第10回 指導計画の書き方・小テスト	教科書118-119pを読んでおく 第7～9回の内容を復習しておく	45分
第11回 0歳児の指導計画(グループワーク)	0歳児の発達をふまえ、エピソードや指導計画を発表できるようにしておく	30分
第12回 1歳児以上3歳未満児の指導計画(グループワーク)	1～3歳未満児の発達をふまえ、エピソードや指導計画を発表できるようにしておく	30分
第13回 3歳児・4歳児の指導計画(グループワーク)	3・4歳児の発達をふまえ、エピソードや指導計画を発表できるようにしておく	30分
第14回 5歳児の指導計画(グループワーク)	5歳児の発達をふまえ、エピソードや指導計画を発表できるようにしておく	30分
第15回 小学校との接続・小テスト	教科書180-185pを読んでおく 第11～14回の内容を復習しておく	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、教科書を読んでおくこと、次回までの課題プリント（小レポート）をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業内小テスト（60%）、授業・グループ討論への積極的関与・発言（20%）、個人課題(授業内プリント・レポート)（20%）

課題に対してのフィードバック

個人課題(授業内プリント・レポート)は、評価後に返却する
グループ課題は、閲覧可能にする

教科書・参考書

教科書：教育・保育カリキュラム論（千葉武夫・那須信樹編集 公益財団法人児童育成協会）
教科書は授業や事前事後学習で使用する
参考書：幼稚園教育要領、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」ほか、適宜紹介、資料配布